

21 医療

現状

- 町内には道立病院が1か所、民間病院が1か所、医療診療所が3か所、歯科診療所が3か所あり、地域における二次医療と一次医療を担っています。

[表20] 町内の医療機関(平成23年1月31日現在)

区分	名称	病床数(床)				
		総数	一般	療養	精神	感染症
病院	北海道立江差病院	198	146		48	4
	佐々木病院	60		60		
診療所	半澤医院	18	18			
	江差脳神経外科クリニック	4	4			
	道南勤医協江差診療所					
歯科	増永歯科医院					
	大沼歯科医院					
	和崎歯科医院					
合計		280	168	60	48	4

- 道立江差病院では、平成19年から、産婦人科医の配置がなくなり、分娩できない地域となっています。
- 江差脳神経外科クリニックでは、独自に救急体制をとっており、平成21年度からは近隣4町による共同支援を実施し、24時間対応可能な救急受け入れ先として、超急性期脳卒中患者などの早期治療による障害の後遺症の軽減を図るための役割を果たしています。
- 平成10年4月から定員40名の道立高等看護学院が開設され、平成22年度からの南檜山地域医療再生計画では、看護師の確保対策についても取り組みが予定されており、地元定着への更なる取り組みが期待されています。

課題

- 救急医療については、救急救命士配置による高規格救急車が運行しており、今後も有資格者の養成と確保を継続的に推進する必要があります。
- 地域で分娩できる体制を整備することが重要課題です。
- 病院退院後の、在宅看護や施設入所などの受け皿について、体制を整備していく必要があります。
- 休日医療については、檜山医師会に委託していますが、今後も近隣町及び医療機関と連携を図り、休日医療体制を維持・継続していく必要があります。

課題解決に向けた基本方針

- ・ 住民がいつでも適切な医療が受けられるよう、医療機関との連携を深め、地域医療の充実を図ります。
- ・ 高齢者の通院サポート体制を充実させます。
- ・ 医師・看護師など医療従事者の確保を図ります。

具体的な施策

道立江差病院の医師確保と医療体制・機能の整備	・ 近隣町との連携による医師確保対策等の要請(分娩再開のための産婦人科・呼吸器科の常勤化、外科機能の維持、小児科の複数体制化)
地域における医療連携体制の確立	・ 地域医療再生計画 [*] の推進(総合内科医の養成や派遣、医療連携の確立及び総合内科医を派遣できる環境の整備、周産期医療確保対策)
通院患者等の交通手段の充実	・ 町内交通体系(バス運行等)の検討



^{*}(地域医療再生計画)国の平成21年度第1次補正予算における経済危機対策として、第二次医療圏を基本とする地域において、医療機関機能の強化をはじめ、医師確保対策、救急医療や周産期医療など、地域の医療課題を解決するための計画です。平成21年度から平成25年度までを期間とし、北海道では南檜山圏域と北網圏域の2地域が選定されました。